



武蔵野市青少年平和交流派遣団 活動報告書

平成27年8月8日（土）～10日（月）



武 蔵 野 市

派遣にあたって



武蔵野市が昭和35年に世界連邦宣言を行い、今年で55周年を迎えました。さらに終戦から70年という節目の年を迎え、若い世代に戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び考えてもらうため、市内に在住・在学の中学生・高校生を、青少年平和交流派遣団として、長崎市へ派遣いたしました。

派遣にあたり、団員たちは長崎への原爆投下や市内にあった軍需工場中島飛行機武蔵製作所への空襲などについて学習しました。また、井の頭自然文化園内にある長崎の平和祈念像の原型の見学などをおして、長崎とのつながりを体感したうえで、派遣に臨

むことができましたと思います。

派遣中には、田上富久長崎市長の表敬訪問をはじめ、全国から集まった青少年と平和交流を行うピースフォーラムや平和祈念式典などに参加しました。青少年ピースフォーラムでは、参加した若い世代の皆さんが、被爆された方のお話を熱心に聞く姿、戦争や平和について、積極的に意見交換している様子を見学し、感銘を受けるとともに、頼もしく感じました。団員たちが、今回の体験を家族や友人たちに伝えていき、平和の裾野が広がっていくことを期待します。

市では、今後も、戦争も核もない世界を実現するため、国内外へ平和の尊さを発信してまいります。

平成27年11月
武蔵野市長 邑上 守正

も く じ

1 武蔵野市青少年平和交流派遣事業について……………	1
2 平和交流派遣の様子……………	5
3 事前学習の様子……………	11
4 平和交流派遣を終えて……………	17
5 参考資料……………	26

表紙写真解説

一段目左 青少年ピースフォーラム

一段目右 山王神社の一本足鳥居

二段目 平和祈念式典

三段目左 城山小学校

三段目右 グラバー園

表紙担当:早川 真由

裏表紙イラスト:小此鬼 涼

武蔵野市青少年平和交流派遣団の概要

昭和 20 年 8 月 9 日の長崎の原爆投下から今年で 70 年の月日が経ちました。

この節目に武蔵野市では、改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代を担う子どもたちに肌で感じてもらうため、市内在住・在学の中高生 8 名による「武蔵野市青少年平和交流派遣団」を、長崎市へ派遣しました。また中高生をサポートするために、大学生 2 名にも参加していただきました。

8 月 8 日から 10 日の派遣期間中は、平和祈念式典や青少年ピースフォーラムへの参加、被爆遺構の見学を行い、被爆体験講話や平和をテーマにした学習会などに参加しました。

同派遣団は、3 回の事前学習を含め、様々な平和学習に取り組んできましたが、今後、団員たちは、今回の派遣で学んだことを、それぞれ家族や友人に伝え活かしていく予定です。

* 青少年ピースフォーラム

全国の青少年と長崎の青少年とが、ともに被爆の実相や平和の尊さについて学び、交流を深めます。同フォーラムでは、長崎市青少年ピースボランティアの高校生や大学生が平和学習の進行や、被爆建造物の案内などを行っています。



青少年平和交流派遣団員名簿

派遣団員

氏名	学校	学年
塩澤 真理 (しおざわ まり)	武蔵野市立第一中学校	1
桜井 慈雨 (さくらい じう)	武蔵野市立第三中学校	1
四郎丸 幸海 (しろうまる ゆきみ)	武蔵野市立第四中学校	1
長谷川 歓多 (はせがわ かんた)	武蔵野市立第三中学校	3
小此鬼 涼 (おこのぎ りよう)	海城中学校	3
佐藤 礼菜 (さとう あやな)	東京電機大学中学校	3
長山 星香 (ながやま せいか)	恵泉女学園高等学校	2
新井 梨夏子 (あらい りかこ)	成蹊高等学校	3

引率職員・大学生サポーター

秋山 真弘 (あきやま まさひろ)	市民活動担当部長
伊藤 彩香 (いとう あやか)	市民活動推進課主事
早川 真由 (はやかわ まゆ)	武蔵野大学
飯泉 拓也 (いいずみ たくや)	亜細亜大学

* 邑上守正武蔵野市長が、派遣団に同行し、田上富久長崎市長表敬訪問や平和祈念式典へ参加し、また、青少年ピースフォーラムを見学しました。

青少年平和交流派遣団 派遣スケジュール

	8月8日（土曜日）		8月9日（日曜日）		8月10日（月曜日）	
5	5:45	三鷹駅北口集合				
6		羽田空港着				
7	7:40	羽田空港発	7:00	起床	7:00	起床
			7:30	朝食	7:30	朝食
8			8:30	ホテル発	8:15	ホテル発
9	9:35	長崎空港着 (マイクロバスで移動)	9:30	平和公園着	9:00	浦上天主堂見学
10	10:45	原爆落下中心地見学 平和祈念館見学	10:30	平和祈念式典	10:00	城山小学校見学 (平和ガイド)
					11:05	山王神社見学 (平和ガイド)
11	11:30	昼食				
12	12:50	長崎市長表敬訪問	12:15	昼食	12:00	昼食
14	13:30	青少年ピース フォーラム	13:30	青少年ピース フォーラム	16:30	グラバー園見学
			15:45	原爆資料館見学		
			16:30	原爆資料館発		
			16:45	出島資料館見学		
16					16:30	長崎空港発
17						
18	18:00	交流会 (長崎新聞文化ホー ル)	18:00	夕食	18:15	羽田空港着・解散
19						
20	20:00	ホテル着	19:30	ホテル着		
21		翌日の準備等		翌日の準備等		
22	22:00	就寝	22:00	就寝		



平和交流派遣の様子



派遣の様子

文章:飯泉拓也

写真:早川真由

派遣初日 8月8日(土)

主な活動

- ・原爆落下中心地、平和祈念館見学
- ・長崎市長表敬訪問
- ・青少年ピースフォーラム1日目

【原爆中心地、平和祈念館見学】



長崎での最初の活動が原爆落下中心地の見学でした。被爆した建物や当時の地層を見ることができ、今まで学んできたことや人から聞いてきたどんなことよりも目の前にあるものの方がリアルで悲惨さを物語っていました。

【長崎市長表敬訪問】



邑上守正武蔵野市長とともに、田上富久長崎市長を表敬訪問いたしました。団員は最初、とても緊張していましたが、長崎の美味しい食べ物の話などをしているうちに緊張もほぐれ、平和の取り組みなどについて、とても実りのある訪問となりました。

【青少年ピースフォーラム1日目】



ピースフォーラムでは実際に被爆を体験した方のお話を聞きました。この講話から学んだことをたくさんの人に伝えていかなければならないと思いました。その後は、全国各地から集まった学生とゲームなどを通して、親睦を深めました。

派遣2日目 8月9日(日)

主な活動

- ・長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
- ・青少年ピースフォーラム2日目
- ・原爆資料館見学
- ・出島資料館見学

【平和祈念式典】



私たちが参列した平和祈念式典には、国内だけでなく世界中から多くの参加者がみえ、11時02分に全員で黙禱をしました。平和祈念像は想像よりも大きく力強さを感じました。

地元の高中生や被爆者の方たちで結成された合唱団「ひまわり」による合唱も披露され、歌詞に込められた平和への想いに心を馳せました。

【青少年ピースフォーラム】



2日目のピースフォーラムでは、核兵器の基本的な知識の習得と参加者同士による意見交換を行いました。育った環境や年齢の違いによって様々な意見が出て、とても有意義な意見交換となりました。

【長崎原爆資料館見学】



原爆による被害がどれほどのものだったのか多くの展示により知ることができます。戦争や原子爆弾の恐ろしさは言葉にならない壮絶さでした。

長崎に落とされた原爆、ファットマンの模型も展示してありました。想像をこえる大きさではありましたが、このたった一つの爆弾が一瞬にして多くの方の命を奪ったと考えると恐ろしいものです。

派遣3日目 8月10日(月)

主な活動

- ・被爆遺構見学(浦上天主堂・長崎市立城山小学校・山王神社)
- ・グラバー園見学

【浦上天主堂】



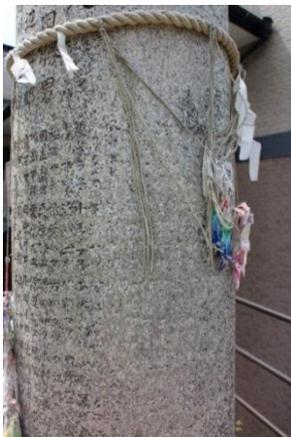
爆心地にあった浦上天主堂は被爆後、原爆の恐ろしさを物語る遺跡として注目されていましたが、信者からの要望で取り壊され、1959年に爆心地から500メートルの場所に再建されました。中には被爆マリア像も展示されています。

【長崎市立城山小学校】



爆心地から500メートルの距離にあった小学校で、校舎の一部は資料館になっており、当時の城山小学校の被害を知ることができます。「嘉代子桜」のエピソードを平和ガイドの方から聞いたときはとても悲しい気持ちになりました。

【山王神社】



爆風によって一本足で立ち続ける鳥居がありました。爆風を受けた面だけ柱に掘られている名前が見えなくなっていました。

2枚目の写真は同じく爆風の被害にあった被爆クスノキです。クスノキの内側に大きな岩が入っていたことを聞き、原爆の威力の大きさを知ることができました。

【グラバー園】



日本最古の木造西洋風建築で、国の指定重要文化財にもなっています。

景色がとても綺麗で、異国文化の良さがうまく取り入れられていて、長崎の素晴らしさが詰まったような場所だといえます。

東京都武蔵野市の中学生8人が青少年平和交流派遣団として8月に長崎市を訪れ、平和祈念式典に出席して全国から集まる若者と交流する。大規模な軍需工場があった武蔵野市周辺は激しい空襲にさらされ、原爆を模した爆弾も投下された。姿も大きさも長崎と同じ平和祈念像がある。「武蔵野と長崎がつながっていた」。事前学習で知った生徒たちは、長崎での経験を地元に戻って周囲に伝えたいと意気込んでいる。
(竹島勇)



杉谷昭夫さんへの説明を聞きながら、「平和祈念像」の原型を見る中学生ら＝7月22日、東京都武蔵野市で

武蔵野

新聞に事前活動の様子が取り上げられました！

平和の祈り
10代つなぐ

長崎訪問へ

「平和祈念像ここにも」
かかわりの深さに驚き

「大きいなあ」。都立井の頭自然文化園(武蔵野市)内の彫刻園で、派遣団の生徒たちから声が漏れた。見上げるのは、長崎市の平和公園にあるブロンズの平和祈念像とそっくりで、高さも同じ高さ九・七メートルの石像だ。

「いずれも作者は彫刻家北村西望氏。長崎の像は一九五五年設置。石像はその原型として前年に作られた。園内に建設が認められた広いアトリエで制作されたものだ。」

説明役を務めた西望研究家の杉谷昭夫さん(65)は「天を指す右手は原爆の恐ろしさと戦争の悲惨さを表し、地上に平らに伸ばした左手は世界の恒久平和を表現している」と解説。「『男の裸の像なんて』と厳しい批判や中傷があったが、西望は強い意志で作業を続けた」と話した。

生徒たちの派遣団は戦後七十一年に当たり、市内の一高三年から公募された。八月八・十日の三日間で、被爆地の見学や被爆者の話を聞く機会もある。生徒たちは派遣前に地元の戦史を知ろうと、市内の空襲跡も見学した。陸海軍機のエンジン製

造し、終戦まで九回もの空襲で二百二十人が犠牲となった中島飛行機武蔵製作所の跡地は、都立武蔵野中央公園や武蔵野市役所となっている。

説明役で、武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会の牛田守彦副代表は「動員された十代の人も亡くなった場所だと覚えてほしい」と語り掛けた。

武蔵野周辺への空襲では、長崎原爆を模した形状の四・五メートルのパンキン爆弾と呼ばれる爆弾が訓練のように投下されていた。一九四五年八月九日、長崎に原爆が投下される直前の七月二十九日のことだ。市立第三中三年の長谷川敏多君(65)は「武蔵野市と戦争との関わりを知らなかった。空襲や平和祈念像の制作でこの地域と長崎がつながっていたことも今回知った」と驚いた様子。「長崎で自分の目で見て聞いたことを伝えていくことが大切だと思」と話した。

海城中三年の小此鬼原君(65)は「西望が武蔵野で平和を願って平和祈念像を作ったことに感動した」と言い、「長崎で平和祈念像を見るときは思いになるだろう」と想像を巡らせていた。

東京新聞
2015年8月1日

事前学習の様子



事前・事後学習について

文章:新井梨夏子

写真:早川真由

結団式 6月10日(水)

結団式の際は四人ずつ並んで対面して座っていたので、自分の反対側に座っていた四人の硬い表情を思い出します。派遣団に参加するという積極性をもつ団員達も、最初は活気あふれるような様子ではなく、長崎へ行って沢山の初対面の人たちに会うのに大丈夫かな・・・と内心少し心配していました。

しかし、参加を希望した理由や派遣団で何を学びたいかについて全員が自分の言葉できちんと話していたので、皆には人一倍強い平和への関心があることを感じ、その意識が皆をここへ集わせたのだと感じました。



文章:新井梨夏子

写真:伊藤彩香

第1回学習会 6月24日(水)

藤本竹次さん

藤本さんは現在武蔵野市に住んでおられます。

十一歳の頃、爆心地から四・二キロメートル離れていた長崎市内の自宅近くで被爆されたそうです。原爆を落とされた後に目にした人々のひどい火傷の様子や乾パン七個と水がお昼ご飯だったことなど、想像を絶する実体験をお聞きました。身の回りに原爆体験者がいない私たちにとって藤本さんのお話を聞いたことは、戦争や原爆が現実味を増して意識させられるものとなりました。戦時中で元々不自由な暮らしをしていた人々に全てを失わせ、何とか生き延びた人にも放射能の悪影響を及ぼし続けるような原子爆弾は廃絶すべきという考えがより深まりました。

牛田守彦さん

法政大学中学高等学校で歴史を教えておられ、また武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会として活動されている牛田さんから武蔵野の空襲と中島飛行機について一時間ほどの講義を受けました。戦争にまつわる事柄は本当にたくさんあり、学校の授業だけでは全然学び足りないことを実感しました。牛田さんはこの講義でも不十分なので、自分でも学習を進めてほしいと言われました。派遣団としての活動が終わったあとも継続して学びを深めていきたいと思います。



文章:長山星香
写真:早川真由

第2回学習会 7月22日(水)

第2回学習会は、7月22日に行われました。この日は長崎の派遣の前に武蔵野市の空襲や戦争に関することを知るためにフィールドワークに出かけました。武蔵野ふるさと歴史館では武蔵野市のこれまでの歩みの展示を見学し、井の頭自然文化園の彫刻館では、北村西望の長崎平和記念像を見たりしました。

見学先

- ・ 武蔵野総合体育館（中島飛行機運動場跡）
- ・ 武蔵野中央公園、はらっぱむさしの（中島飛行機武蔵製作所工場跡）
- ・ 延命寺（平和観音、250キロ爆弾）
- ・ 源正寺（被弾した墓石）
- ・ 武蔵野ふるさと歴史館
- ・ 井の頭自然文化園（平和祈念像原型）

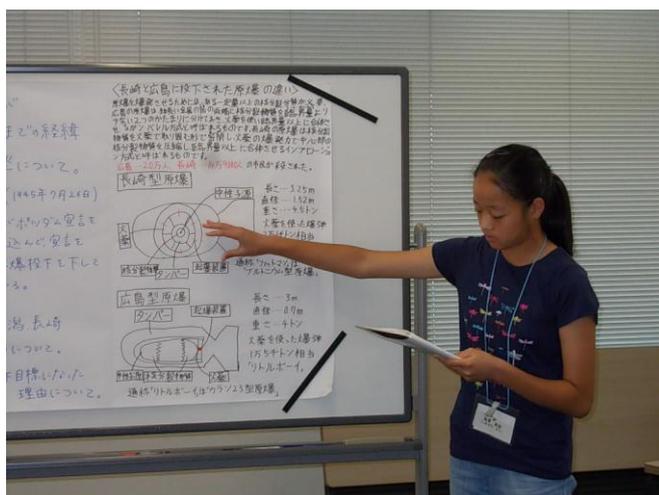


文章:小此鬼涼
写真:早川真由

第3回学習会 7月31日(金)

結団式の時に与えられていた団員一人一人の調べ学習の発表を行いました。原爆投下までの経過やその被害から長崎の地理や気候、人口までたくさんを知ることが出来ました。この日得た知識は長崎でお土産を買う際など、とても役に立ちました。

また、長崎派遣への意気込みを発表する機会があり、自分が派遣団員なのだという自覚も次第に芽生えはじめました。





平和交流派遣を終えて



「長崎平和使節団に参加して」

武蔵野市立第一中学校
一年 塩澤 真理

私が今回の平和交流派遣団に参加させて頂いたのは、姉のある一言がきっかけでした。

私の姉は、以前この行事に参加させて頂いたことがあり、『平和とは何か』という事を学べるとても良い経験となったそうです。そんな姉が長崎から帰ってきて、一番この行事に参加して良かったと思ったことは、「被爆体験者の方々から話を聞くことが出来た」ということでした。

私はその言葉を聞き、私も長崎へ行って戦争の現実を知り、『平和の大切さ』について学んでみたいと思い、この行事に参加させて頂きました。

経験者の話を聞くことが出来たのは、ピースフォーラムの時間でした。被爆者の方々は「一日でも早く核兵器をなくしてほしい」とおっしゃっていました。私は体験者の方々から原爆が落ちた時の話を伺い、核兵器の恐ろしさや平和の大切さを改めて実感することが出来ました。

長崎へ行くまでは、あまり『平和の大切さ』について考えてみたことはありませんでした。しかし、この行事に参加させて頂き戦争の現実を知ることにより、戦争の悲惨さ、平和の大切さを改めて実感することが出来ました。

こうしている間にも人々は戦争の悲惨さをどんどん忘れていってしまいます。被爆者の方々の平均年齢が、今年の三月で八十歳を超えてしまったそうです。私達若い世代が核兵器の恐ろしさを次世代に伝えていかなければなりません。そのためには、一人でも多くの人に原爆の話を聞いてもらい、平和を守るために、一人ひとり今できることをやっていくことが大切だと思います。それが平和へとつながる第一歩になっていくのだと思います。



ピースフォーラムでの意見だしの様子

青少年平和交流派遣団に参加して

武蔵野市立第三中学校

一年 桜井 慈雨

今回、平和交流派遣団に参加して、「平和」ということについて改めて考える3日間を送りました。その中でも特に印象深かったのは、青少年ピースフォーラムへの参加です。

日本全国から集まった小・中・高生がみんなで意見交換して、自分たちの考える「平和」について議論を深めて行きました。その中では「国際平和」というと難しい事のように思えるけれども、まずは差別やいじめをなくしていくことからその第一歩を踏み出していけるのではないかと、といった意見が出ていました。きちんと自分の考えを持ちながらも、他人の異なる意見も尊重するという態度を持てるようになるために、日ごろから学校や家庭などで、そういう体験を積み重ねることが大切ではないかと思えます。そうして、身近なところから争いをなくしていくことが平和へ近づく一番の方法だということを感じました。

さらに、ピースフォーラムの中でもう一つ強く心に残っていることとして、被爆体験講話があります。爆心地から1800m程のところまで被爆した中村一俊さんの話してくれた、被爆直後の長崎の町の凄惨な様子は、想像するだけでも涙が出てくるようなものでした。僕やフォーラムに参加した人たちは、この実体験を聴ける最後の世代だと思います。このことを周りの人たちに、そして、さらには少し先の話かもしれないが、次の世代に伝えていく責任があることを強く感じました。

先輩派遣団員の方が、報告書に「記憶は忘れられて行き、歴史は繰り返す」と書いていました。しかし、想いを伝えていくこともできるのが人のすごいところだと思います。今回の派遣団で、全国から来た同年代の人たちと共有した想い、原爆を体験した方のお話から感じ取った想いを、今度は自分達の暮らす武蔵野のまちで広げていきたいと思えます。



平和祈念式典での様子

武蔵野平和派遣団に参加して

武蔵野市立第四中学校

一年 四郎丸 幸海

長崎へ武蔵野平和派遣団として行った三日間。私はたくさんの事を見聞きし、学びました。

一日目、二日目に参加した、「青少年ピースフォーラム」では、実際に被爆者の方からお話を聞いたり、みんなで平和について考えを深め合う事ができました。その時された質問、「平和ってなんだろう?」、「幸せってなんだろう?」という言葉が深く心に残りました。私たちのグループでは、「友人と話している時、家で家族と過ごしている今の日常が幸せな時であり、平和な時でもある。」と答えを出しました。その事を私は戦争についてのニュースや新聞の記事を見るたびに実感します。その反面、私たちは楽しく暮らしているけれど、世界の反対側には、爆弾を怖がり、夜も眠れない子がいる。そう思うと、悲しくなり虚しくなり、やりきれない気持ちになりました。

また、原爆資料館や浦上天主堂など、原爆落下地などを見ていると、どうして私たち人間はこんなことになるまで戦争を続けてしまったんだろうと悲しみがこみ上げてきて、なんともいえない気持ちになりました。

それと同時に二度と戦争を起こしてはならない、長崎や広島のような被爆地をつくつてはいけない、戦争を防ぐのが私たちの使命なんだ、と思いました。ですが、私たち子供にできるのは、友達や家族に今回学んだ事を話すことくらいしかできません。ですが、その行動の一つ一つが平和へ向けてのかけ橋だと思います。そしていつかその行為が実を結び平和へと一歩近づくと 생각합니다。その事を頭に思い浮かべながら毎日を送っていきたいです。



全国の仲間たちと平和を考えました！

武蔵野市平和交流派遣団 感想文

武蔵野市立第三中学校

三年 長谷川 歓多

今回、武蔵野市平和交流派遣団に参加させていただいたことは、僕にとって大変意義のあるものとなりました。僕は平和交流派遣団に参加させていただく前は、広島
の原爆のことしか知らず長崎との違いもあまり分かっていませんでした。ですが今回、
参加させて頂いたことで長崎の悲劇を学ぶことができました。

又、結団式で初めて派遣団の仲間たちとお会いした時はとても緊張していましたが、
みんなと一緒に学習を行う中でだんだんと打ち解け合えるようになりました。
事前学習では武蔵野市と戦争の関係や歴史について学ばせて頂いたり、武蔵野市
の戦争の跡地も見学させていただきました。

長崎では原爆資料館や浦上天主堂など今なお残っている原爆の残した傷跡をこの
目で確かめる事ができました。原爆資料館でファットマンの模型が置いてありました。
又、ピースフォーラムでは被爆者の方々が受けた悲しみを聞かせて頂きました。それ
は僕が想像していた事よりも遥かに凄まじいものでした。その後、班に分かれて平和
について意見を出し合いました。一人一人平和への思いが違うことに驚きました。



ピースフォーラムでの様子

青少年平和交流派遣団に参加して

海城中学校
三年 小此鬼 涼

今年、戦後 70 年の節目の年に武蔵野市の青少年平和交流派遣団に参加できたのはとても貴重な体験でした。

武蔵野市の戦争被害でさえあまり知らなかった僕には、長崎派遣前の事前学習でその歴史を学べたことはとても大きかったと思います。長崎ではピースフォーラムに参加し、被爆体験者の方から話を伺ったり、全国から集まった同世代の人たちと意見交換をしたりと、とてもいい経験になりました。特に、被爆体験者の方の「皆さんに『核をなくしてほしい』と声をあげられる人になってほしい。」という言葉は心に残りました。そのほかにも浦上天主堂や原爆資料館に行きましたが、当時の写真や戦跡に僕は衝撃を覚えました。今までも学校の授業などで戦争について学ぶ機会はありませんでしたが、戦争について理解を深めるには実際のものを見たり聞いたりすることが大切だと実感しました。今回の経験を通して戦争についての知識を少し深めることができましたと思います。

長崎や広島と同世代の人たちは戦争に対する意識が自分より高いように感じました。被爆地で生まれ育っていない若者にとって、戦争に触れる機会は少ないけれど、自らの意志で踏み込んで戦争を学ぶことが重要なのではないかと思います。戦争を学ぶための手段はたくさんあるので、戦争に興味がないからといって学ばないのではなく、自ら見たり聞いたりする機会を作っていくことが大切だと考えます。そしてそれは戦争を経験していない僕たちの役目だと思います。これからも平和の尊さを継承していくために、戦争の悲惨さを後世に語り継ぎ「戦争をしてはならない」と声を上げ続けていきたいです。



山王神社のクスノキと

青少年平和交流派遣団に参加して

東京電機大学中学校
三年 佐藤 礼菜

私が今回、青少年平和交流派遣団に参加を希望した理由は、2年前に広島を訪れた際に原爆ドームへ行ったり被爆者の話を聞いたりして、平和の尊さを実感したため、同じく原爆を落とされた長崎へ行き、平和の尊さ、原爆の悲しさを伝えたいと思ったからです。

実際に長崎へ行って、たくさん学ぶものがありました。まず、被爆体験者の中村さんの話です。中村さんは、原爆で父親以外の家族をなくしてしまったこと、原爆が落ちた時、その後の状況を詳しく教えてくださいました。また、「核兵器をなくすには各国が仲良くすることが大事」「核兵器を世界からなくしてほしい。またそう言える人になってほしい」「被爆者で世界から核がなくなることを望まない人はいない」そして「原爆も反対だ」と仰っていました。私はこれを聞き、核兵器も原爆もとても恐ろしいものなのだ改めて思いました。

次に、原爆資料館で、人的被害や物的被害の説明や写真、熱線や爆風を受けた様々な展示品を見た時は、当時の熱さや苦しさが伝わってくるようでとても悲しくなりました。さらに青少年ピースフォーラムの中で1日で世界はどれだけたくさんの核実験をしているのか、BB 弾の音を聞いた時、想像をはるかに超えて、私はとても怖くなりました。そして、その音を聞いた上で「どうすれば世界から核兵器をなくせるのか」という話し合いをして、求める手段、手法においては私と異なる様々な意見もありましたが、最終的には「戦争反対」の方向で意見一致しました。

今回の長崎の経験で、私は2年前に広島に行った時よりも人々の状況をより鮮明に意識の中に刻むことができました。また、多くのことを学びました。私は今回の件については、まずは学校や地域周辺において、戦争の悲惨さや憎悪の念と体験を聞いてきた1人の語り部として伝えていきたいと思います。



たくさん話し合っ意見を出しました！

青少年平和交流派遣団に参加して

恵泉女学園高等学校

二年 長山 星香

戦争は2度と起こってはならない。戦争の話聞いた感想文に書いたり、メディアでもよく言われている言葉です。私は今回、青少年平和派遣団としてそれ以上のものを得たいと思いながら長崎へ向かいました。

たくさんの事を考えた2泊3日でしたが、特に自分の為になったと感じたのはピースフォーラム2日目でした。その日は私と同世代の長崎のピースボランティアの方が核兵器についてスピーチして下さったり、核兵器廃絶の為の意見交換、平和とはどのような事であるか考え話し合いました。参加者に小・中学生が多いこともあり、話し合いの議題は高校生の私にとっては少し簡単なのではと思っていました。しかし、一見簡単に見えて答えがひとつに決められなかったり、発想力が必要とされたりして、しっかりと考えさせられるようなテーマばかりでした。核兵器廃絶の為にはどうしたら良いかを考えた時、私は核兵器の恐ろしさを多くの人を知る事、自分の知識を他の人に伝える事が重要だと考えました。一方で、この世界から核兵器を完全に無くす事はほぼ不可能だと言う人がいました。とても驚きました。自分の頭の中にはそんな考えがなく、新しいものが広がった様に感じました。加えて、無理だと諦めるのではなく、核を使わせない様に人々が動いていくべきだという意見を言っていました。自分の意見を持っているだけでは考えたとは言えず、他人の意見はこんなに自分に新しいものを与えてくれるのだと実感した瞬間でした。

今回は本来の目的を超えてたくさん学ぶことができましたが、平和についても被曝体験者の方の話を直接聞かせていただき、貴重な時間を過ごしました。戦争は2度と起こしてはいけないことはもちろんですが、全国の同世代の人たちと平和について考えを深める機会が与えられました。今後は私から意見を発信していけたらなと思います。



たくさんの知識を吸収しました

これからの社会を構成していく私達の担う責任

成蹊高等学校
三年 新井 梨夏子

私はアメリカで子供時代を過ごし、外国では自分が日本人の代表として見られることを実感し、日本のことをよく学ぶべきだと思っていた。そして戦後 70 年を迎えた今年、日本がこれからも武力行使をしない国でいられるのか疑問に思え、先の戦争をよく知る意味でも派遣団に応募し、幸い参加することができた。高3は私一人だったが、団の皆とも仲良くなれて貴重な体験をすることができた。

長崎へ行くことになってから、祖母から空襲を含めた戦争体験の話の聞いたり、事前学習で市内在住の原爆体験者と空襲体験者の方のお話を伺ったり、現地調査で戦時中の武蔵野市について学び、今も残る銃撃や爆弾の跡を見たりして、先の戦争を身近に感じた。

長崎では、青少年ピースフォーラムへの参加が特に有意義であったと考えている。若人が全国から集って、平和とは何か、平和を作るには何をするか、について話し合った。最後に班ごとに発表をし、私もマイクを握って喋ったが、平和を作るための皆の案を聞いて感じたのは、もっと具体的に方策を考えなくてはならないということだった。「みんなと仲良くする。」それが平和をつくることは確かだが、様々な理由でそれが出来ない事情があって戦争は起きた。そのためなぜ仲良くできないのか理由を学び、その対立を解消し、また防ぐためにはどうすればいいのかという踏み込んだ考えを、難しいけれど生み出せるよう努めていきたいと強く思って帰途についた。

戦争について学んでいくうち、日本が武力行使をせず 70 年間きたのが稀なことだと知った。自分が安全な環境で育ったことを奇跡のように感じた。私たちは、たまたま平和な毎日を過ごすことが出来たのだと自覚して感謝すべきであり、平和をつくるのは勿論、維持するためにもたゆまぬ努力が必要なのだと認識し、その責任を自分は負っていると、派遣団の経験を経て思った。

今回の参加をきっかけに得た学びを、友人を始めとしてこれから出会う人々にも伝えていき、その人も知ったことを広めていってくれるよう、学びを深めていくと同時に語り続けていきたい。

最後に、この派遣団で出会った皆へ、長崎の人々のように日本中の人々が、そして海外の人々も、平和への強い気持ちを抱く世の中をつくるため、私達は平和活動に努めていきましょう。

平和の尊さを改めて学ぶことを可能にしてくれた皆様に感謝します。



長崎市長表敬訪問時の代表の挨拶の様子

【参考資料】第三回学習会発表資料

・長崎の海外交易の歴史

① 南蛮貿易 (1540年代から1639年)

貿易港: 長崎, 平戸

輸出品: 金, 銀, 銅, 漆器 など

輸入品: 中国産生糸, 鉄砲 など

貿易相手: ポルトガル, スペイン

② 朱印船貿易 (1592年～1635年)

貿易港: 長崎, 平戸

輸出品: 蒔絵, 米 など

輸入品: 中国産生糸, 絹織物 など

貿易相手: 東南アジア

幕府からの
渡航許可書
(朱印状)を持った
船を朱印船という

③ 長崎貿易 (鎖国後の貿易)

輸出品: 銅, 麦, 俵物 など

輸入品: 白糸, 菜種, 砂糖 など

貿易相手: 中国(清), オランダのみ

輸出する銅の不足に
伴う貿易渋滞を
なくすため, 1715年に
「海舶互市新例」を
制定, 輸出入を制限

④ 開国後の貿易

安政の五か国条約(アメリカ, オランダ, ロシア, イギリス, フランス)
により, 横浜, 長崎, 函館, 神戸, 新潟が開港

輸出品: 生糸, 茶 など

輸入品: 毛織物, 絹織物, 綿花 など

現在は, 輸出品: 船舶, 電気機器, 石油製品 など

輸入品: 金属製品, 魚介類 など

長崎名物や特産品

長崎県はリアス式海岸や対馬暖流や太陽の恵みを受ける耕耕地など、自然環境に恵まれ、多種多様で、たくさんの物がとれます。

○農産品

太陽の恵みを受ける耕耕地では、日本一の生産量をほこる、じつが取れます。

○海の幸

対馬暖流では、脂ののったごんあじや、長崎いさき、長崎とらふぐが多くとれる。

○外国からの文化

長崎は、昔から外国との貿易が盛んだったため、外国からの文化は多いです。郷土料理の1つの卓袱料理の、オランダ煮が有名です。オランダ煮は郷土料理としては珍しく、油であげます。材料を一度あげてから煮る、という調理法が長崎らしい、独自の文化といえるでしょう。

県の地理と気候

地

面積

総面積が $4,088 \text{ km}^2$

そのうち 45% が島

そのうち 山地が多く、低地は 8%

理

県の名前の由来も 長くつぎだした山甲

⇒ 海岸線の延長は $4,197 \text{ km}$

気
候

大部分は対島海流の影響で

温暖・多雨

だが細分すると

北部、有明海沿岸・内陸部、

対島・壱岐 は色々異なる

年平均気温 16.6°C

年降水量 2002mm

長崎市の現状

長崎市...昔から開かれていた港のそばに
できた町であり、三方を山にかこまれた
すり鉢状の地形をしている。
そのため、市街地は山を切り開いて
つくられており、階段の町、坂の町として有名。

人口... **43**万1232人 (武蔵野市の約2.8倍)

面積... **405.81**km² (: 37倍)

人口密度... **1060**人/km² (: 約 $\frac{1}{13}$)

市の木... ナンキンハゼ

市の花... アジサイ

シーボルトが、日本原産のあじさいを
「ハイドランゼア・オタクサ」と名付けて
世界に紹介したことから。

市長... 田上 富久さん (第32~34代)

産業... 工業・造船業、観光業、水産業など

平和関連...

浦上地区にある、平和公園や原爆資料館、被爆した
浦上天主堂などが有名。名誉市民には原爆からの復興に
関する業績のあつた人が挙げられて、他、ピースフォーラムなども開かれている。

長崎に原爆が

投下されるまでの経緯

- ☆ 最初の核爆発について。
- ☆ ポットダム宣言 (1945年7月26日)
連合国側は日本がポットダム宣言を受け入れないと見込んで、宣言を
発表する前日に原爆投下を下して
いたとも言われている。
- ☆ 攻撃目標地
→ 広島、小倉、新潟、長崎
- ☆ 目視投下の理由について。
- ☆ 長崎が原爆投下目標になった
理由について。

原子爆弾による物的被害



家屋などの全壊
全焼地域
…半径2km以内

爆心地の1km以内では
一般の家屋は原形をとど
めないまでに破壊。

鉄筋コンクリートなどの建物
は所々に残ったが、建物とは
名ばかりの無惨な状態。

長崎原爆の人体に与える影響

原子爆弾による障害

原爆症とは？

原爆の熱線・爆風・放射線
が人に与える障害。

原爆の投下から4ヶ月をさかいに
急性障害と後障害に分けられます。

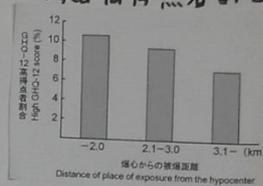
急性障害 → 原爆が投下されてすぐ
あらわれる病気

熱線と火災による障害 … やけど

爆風による障害 … 外傷、骨折など

放射線による障害 … 吐き気、だるさ、
髪の毛が抜けるなど

被爆距離別のGHQ-12
項目高得点者割合

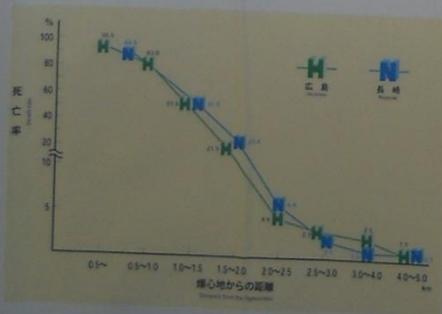


原爆による被害状況

原爆が投下される前の長崎の人口
約24万人

↓
原爆において73,884人亡くなった

原爆による死亡率



後障害 → 4ヶ月より後になって
あらわれる病気

ケロイド … やけどの後が
もりあがったもの

原爆白内障 … 眼の水晶体が
白くにごって見えにくくなる

小頭症 … 原爆にあつた母親の
おなかの中にいた子の
頭が小さい病気

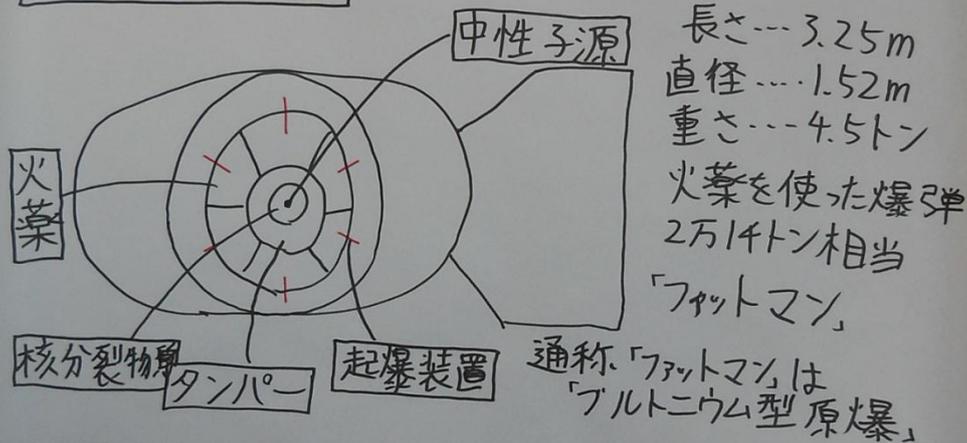
白血病 … 血液のがん

〈長崎と広島に投下された原爆の違い〉

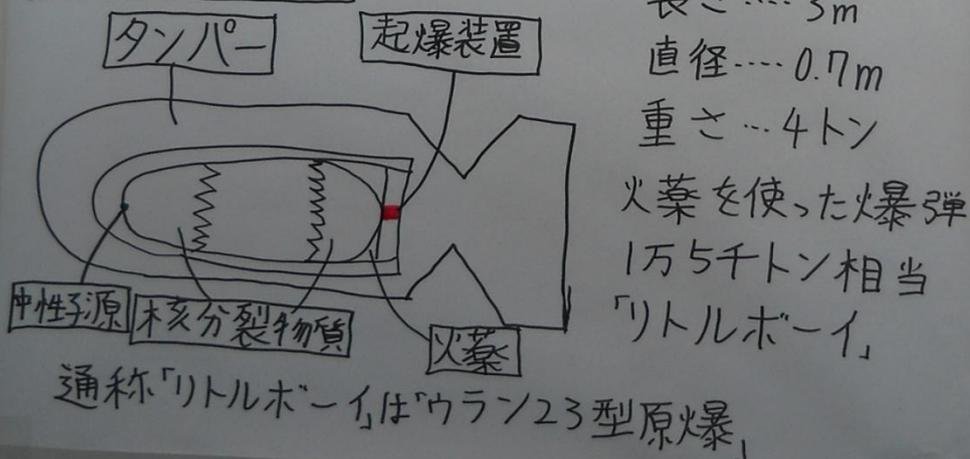
原爆を爆発させるためには、ある一定量以上の核分裂物質が必要。
 広島原爆は、細長い金属の筒の両端に核分裂物質を臨界量より
 少ない二つのかたまりに分けておき、火薬を使い臨界量以上に合体さ
 せるガンパレル方式と呼ばれるものです。長崎原爆は核分裂
 物質を火薬で取り囲む形で密閉し、火薬の爆発力で中心部の
 核分裂物質を圧縮し、臨界量以上に合体させるインローシ
 ョン方式と呼ばれるものです。

広島...20万人 長崎...14万9000人の市民が殺された。

長崎型原爆



広島型原爆



【参考資料】

長崎市長表敬訪問 あいさつ

本日は、私たち武蔵野市青少年平和交流派遣団のためにお時間をいただき、ありがとうございます。団員を代表して、ごあいさついたします。

私は昨年、学校の学習旅行で韓国を訪れ、戦時中に韓国で起きた悲惨な出来事を見聞きし、大きな衝撃を受けました。そして、実際にその場所を訪れて体験することの大切さを感じ、日本で原爆投下の歴史がある長崎を、いつか訪れたいと思っていました。

これから参加する青少年ピースフォーラムでは、全国の人たちとの交流をとおして、多くのことを学び、吸収したいと考えています。

今回体験したことを、武蔵野市に帰ってから家族や友人に伝え、また、海外生活で得た様々な国の友達にも伝えたいと思います。

戦争と平和というものへの意識が軽んじられているかのような昨今、日本で戦争を経験した方々の魂を私自身が引き継ぐよう、努めます。本日はありがとうございました。

武蔵野市青少年平和交流派遣団員 新井 梨夏子



事務局より

青少年平和交流派遣団団長 秋山真弘
市民活動推進課 伊藤彩香

終戦から 70 年を迎え、戦争体験者が高齢化していく中、若い世代にとっては周りの人から戦争について話を聞く機会も減り、戦争は遠い存在になりつつあります。青少年平和交流派遣事業は、子どもたちが戦争や原爆の実相を学び、改めて平和に関して考えてもらうことを目的に実施いたしました。

今回参加した団員たちは、戦争や平和に対して意識が高く、参加の動機を尋ねた際にも「原爆や戦争に関して、実際に現地に行ってお話を聞きたい」「原爆の被害などを自分の目で確かめたい」といったことを話してくれました。

派遣に先立ち、3回の事前学習会を行いました。この学習会でも市内の空襲や戦争にまつわることに興味を持ち、また、長崎市の歴史などもいろいろと情報を集めて、学習発表に臨むなど意欲的に取り組んでいました。

派遣先の長崎では、田上長崎市長を表敬訪問した際に「青少年ピースフォーラムで様々な意見を聞いて勉強してください。平和について自分で考えていくことが重要です。」というお話を伺いました。その言葉を受け、全国から参加した同世代の仲間と意見交換などを行う青少年ピースフォーラムでは、団員たちは自らの意見を述べるとともに、仲間の意見を吸収していました。また、被爆体験者の中村さんのお話の中で、「戦争は人の命を奪う、人の心を奪う」という言葉がありました。団員たちも、平和の大切さについて、認識を新たにしました。

派遣は終了しましたが、団員たちの役割はまだ終わっていません。今回の体験を活かして平和の大切さを伝えていってくれることを期待しています。

編集後記 平和交流派遣を終えて

大学生サポーター 飯泉拓也
早川真由

武蔵野市青少年平和交流派遣団の活動報告書をまとめるにあたり、それぞれの団員の感じたことや想いが伝わるよう、話し合いを重ねながら、時間をかけて取り組んできました。

私たちは、普段、東京で普通に生活してはなかなか感じることの少ない生の戦争のにおい、傷跡。長崎市内にたくさんの原爆のあとが今でも残っていて、今そこにはたくさんの人々が暮らしていることを肌で感じました。とても不思議な感じがしたのを覚えています。戦争は歴史の教科書やおじいさんやおばあさんが語ってくれるもので、少し遠くてあまり現実味のないものだと思っていました。しかし、ピースフォーラムで高校生のピースボランティアの人たちが工夫を凝らし、自らの町の歴史を説明してそれに全国の子供たちが意見を交し合う姿を見て、長崎では原爆の遺跡が身近にあるように歴史も身近で、歴史の語り部のバトンを引き継いで若者が回りにどんどん発信していく形がもう動いているのだ、それはこれからの世界にとってすごいパワーになると感心しました。

団員の皆さん、ピースフォーラムでの田上市長の言葉を覚えていますか？『これから大切なのは世界中に友達を作って国と国との関係ではなく人と人の関係を強め、幅広い視点で世界を見るべき』なのです。最初は緊張でカチカチだったみなさんだったけれど、サッカーを見たり、トランプしたりどんどん仲良くなっていったのがすごく目に見えました。団の中だけでなく今回の派遣で日本中に友達ができたと思います。その『友達づくり』のことを忘れずに、また自ら学びどんどん発信して、楽しい平和な世界をともに目指していけたらなと思います。

最後に、事前学習に関わってくださった方々、受け入れてくださった長崎市の皆様、平和交流派遣を実施するにあたってお世話になった皆様に、心よりお礼申し上げます。

武蔵野市青少年平和交流派遣団
活動報告書

編集担当
飯泉拓也、早川真由

発行 平成 27 年 10 月

